品川教育の実践

市民科

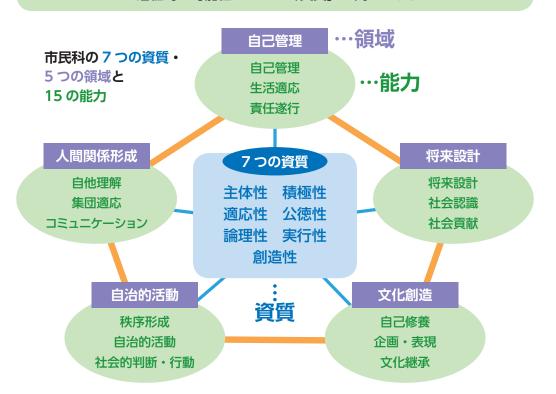


市民科は、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合・再構築した品川区の独自教科です。

平成 18 年度より、オリジナルの教科書を用い、義務教育 9 年間を通した系統的な 指導で、市民(社会の形成者)としての資質と能力を育てています。

【市民科における資質と能力の考え方】

市民科では、市民として必要な汎用的な「能力」を身に付け、 潜在的な可能性としての「資質」を高めます。



市民科学習の時間には、市民科の教科書を用いて学習を進めます。併せて、「特別の教科 道徳」の教科書も活用します。





※教科書の内容については、平成32年度に向けて、改訂作業を進めています。

市民科学習は、5つのステップに沿って進めます。

ステップ1

把握

課題発見•把握

課題に関わる意識調査や話し合う活動を通して、自己の生活と行動を振り返り、解決すべき問題点や社会的背景を把握する。

ステップ2

認識

知識/価値/心情

交流・協議しながら、多面的・多角的に各自の判断基準を捉え直すとともに、 心情を深め、解決するための行為・行動の意義や価値について認識する。

ステップ3

技能

スキルトレーニング/体験的活動

体験的な学習を通して、認識した価値を実践につなげる態度を養うとともに、課題解決に向けた具体的な対処方法、技能を習得する。

ステップ4

実践

日常実践/活用

ステップ3までに学習した正しい知識や習得した技能を、学校・家庭・ 地域で実践・活用する。授業時数には含まない。

ステップ 5

深化

評価/深化

ステップ4での実践を振り返り、単元を通した自己の内面や行為・行動の変容について評価するとともに、社会的存在としての生き方について考えを深める。

- 通知表等への市民科の評価は、5つの領域毎に文章で記述します。
- 特定の行動ができたか、できないかではなく、児童・生徒一人一人の成長を 評価しています。

市民科学習の主な体験活動



茶道 (3年生・4年生)



スチューデント・シティ (5 年生)



ファイナンス・パーク (8 年生)

注)7つの資質と15の能力、5つのステップは、平成32年度から実施する「品川区立学校教育要領」に基づきます。

品川教育の実践





4つのテーマと4つのアクション

オリンピック・パラリンピック教育では、知・徳・体の調和のとれた幼児・児童・生徒の育成を目指しています。各学校・幼稚園では、各教科等の学習内容や学校行事等の取組を「4つのテーマ」×「4つのアクション」と関連付け、年間 35 時間程度のオリンピック・パラリンピック学習を行っています。

4つのテーマ			4つのアクション			本区の子どもたちに育てたい5つの資質
オリンピック・ パラリンピックの 精神	スポーツ	×	学ぶ (知る)	観る	\rightarrow	おもてなし 障害者理解 スポーツ志向 和 の 心 国際的な視野
文化	環境		する (体験・交流)	支える		

品川区オリンピック・パラリンピック学習教材「ようい、ドン!しながわ」



「ようい、ドン!しながわ(1~4年)、(5~9年)」は、児童・生徒が、東京 2020 大会に興味・関心をもち、自分たちにできることを真剣に考え、積極的に関わろうとする意欲を高めることを目的としています。

本教材には、オリンピック・パラリンピックと 関連する品川区の歴史や特色等を多数掲載しており、東京 2020 大会がより身近なものに感じられるような内容となっています。すべての学校・学年に配布し、市民科等で活用しています。

3 競技体験教室

平成 28 年度から、東京 2020 大会区内開催競技の「ホッケー」、「ビーチバレーボール」、本区応援競技の「ブラインドサッカー」の体験教室を行っています。

体験を通してスポーツの楽しさを知る ことはもとより、フェアプレーの精神や 粘り強さ、思いやりの心を育てています。



世界ともだちプロジェクト

東京 2020 大会に向け、各学校・幼稚園では、任意の「学習・交流国」5か国について調べるとともに、海外からの訪問者や大使館の方々との交流を行うことで、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重する態度を養っています。

また、改めて日本の良さに気付き、お もてなしの心を育む機会としています。



平成 30 年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校および パラリンピック競技応援校

平成30年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校として、区立学校9校(園)が東京都教育委員会から選ばれました。これらの学校・幼稚園は、本区のオリンピック・パラリンピック教育の牽引役として、その成果の普及・啓発を図っています。

また、パラリンピック競技応援校として、中学校1校が選ばれました。観戦・体験およびボランティア等を通して、障害者スポーツへの理解を促進するとともに、他校への普及・啓発を目指しています。

●オリンピック・パラリンピック教育アワード校

- <事業推進部門>
- ・城南幼稚園(スポーツ志向)
- ・八潮わかば幼稚園(日本人としての自覚と誇り)
- ・城南小学校(日本人としての自覚と誇り)
- ・京陽小学校 (豊かな国際感覚)
- ·延山小学校(障害者理解)
- ·中延小学校(障害者理解)
- ・鈴ケ森中学校 (障害者理解)
- ・豊葉の杜学園(スポーツ志向)
- ※()内は、重点的に育成したい資質
- <環境部門>
 - ·第二延山小学校

●パラリンピック競技応援校

- ・荏原第六中学校 [五人制サッカー (ブラインドサッカー)]
- ※[]内は、応援競技

各校にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置しています。

各学校・幼稚園では、それぞれ趣向 をこらしたオリンピック・パラリンピッ クコーナーを設置しています。

世界ともだちプロジェクトの「学習・交流国」5か国関連の展示や、区内開催競技の展示等、園児・児童・生徒が身近にオリンピック・パラリンピックを感じられるような工夫をしています。





